

いわき市で 車座意見交換会を開催しました

- ・ 目的：震災遺構浪江町立請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館の見学、放射線に関する意見の共有を通して、子どもと一緒に復興について理解を深める。
- ・ 開催日時：令和6年8月24日（土）9:00～16:30
- ・ 開催場所及び講師：震災遺構浪江町立請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町産業交流センター〔講師：松原昌平（原子力安全研究協会）、ファシリテータ：崎田裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー）〕
- ・ 参加者：いわき地区の小中高へ通学する児童・生徒の保護者6名、児童・生徒等6名 計12名
- ・ 内容：一震災遺構浪江町立請戸小学校見学
一東日本大震災・原子力災害伝承館見学
一意見交換、質疑応答
- ・ 概要：震災遺構浪江町立請戸小学校では、津波による建物の被害状況や展示資料等を見学し、東日本大震災・原子力災害伝承館では、見学を通して原子力災害の記録や復興に向けた廃炉等の取組みについて理解を深めた。その後、双葉町産業交流センターの会議室にて、講師と放射線に関する質疑応答を行い、参加者間で放射線に関して気になっていること等について、意見交換を行った。参加者からは、「専門家の意見を聞けて大変勉強になった。ありがとうございました。また、子どもにも良い体験をさせることができたと思う。震災遺構浪江町立請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館をまた見学したいと思った。」等の意見があった。

【主な意見交換等】

- ・ 関東圏で、局所的に放射線量が高いホットスポットが見つかったが、どのようにして見つけたのか。
→福島第一原発事故の後、様々な団体が各地域の放射線量を測定したためである。線量が比較的高かった地域では、除染も行っている。
- ・ 子供が東日本大震災を知らない世代であるため、施設見学を通して、震災で起こったことを実際に見て学んでほしいと思い、応募に至った。当時、大量にあったフレコンバックがなくなっているのを見ると、良い方向に復興していると感じた。
- ・ 実家が農家であるため、水の放射線量について、少し気になっていた。今回参加して、不安は解消した。



震災遺構浪江町立請戸小学校見学の様子



意見交換の様子